

企画展示

文明開化と教科書

明治の教科書 その二

平成18年1月18日(水)～2月26日(日)愛知県図書館 2階ロビー

はじめに

明治初期は、わが国の政治・経済・社会など、すべての分野において、近代国民国家創出のため、「文明」=欧米起源の近代的な制度の導入が試みられた時代でした。当時のキーワード「文明開化」が、この間の事情をよく示しています。

愛知県図書館では、今回「文明開化と教科書」と題しまして、明治初期「文明開化」を押し進めた人物や、近代教育制度確立に資した施設などに関連した愛知県図書館所蔵の明治期教科書を、またその教科書の中で諸外国がどのように触れられているかなどをご紹介します。

なお、今回の企画は、平成14年1月から2月にかけて実施した「明治の教科書 寺子屋から小学校へ」に続くものです。

1. 福沢諭吉と初期教科書

学制(明治5年)直後の教科書は、寺子屋で使われていた往来物と呼ばれる教科書をそのまま使用したり、一般向けの既存の啓蒙書をそのまま転用してしのいだ例が多い。江戸時代の寺子屋と明治の新しい学校を比べると教育内容に差があり、教科書の編集が間に合わなかった。教科書として使用された啓蒙書の例として、福沢諭吉の『西洋事情』『学問ノススメ』、中村正直訳の『西国立志編』や箕作鱗祥訳の『^{たいせいかんぜんくんもう}泰西勸善訓蒙』などがあげられる。

【展示資料】

- ・福沢諭吉編・刊『西洋事情 巻2・3』1866(慶應2)年
(請求記号:BF230/1/2~3)
- ・福沢諭吉訳『帳合之法 巻1-4』慶應義塾 1873~4(明治6~7)年(BF/679/3/1~4)
- ・『世界国尽 1-6』(復刻:『名著復刻全集近代文学館 明治前期1』)(B918.6/3-1/1)



『西洋事情』

- ・福沢諭吉訳『^{どうもうおしえくさ}童蒙教草 初編巻1-3 2編巻4-5』慶應義塾 1880(明治13)年

(BF159/11/1~5)

- ・福沢諭吉著・刊『民間経済録』1880(明治13)年 (BF331/8)
- ・箕作麟祥^{たいせい}訳『泰西勸善訓蒙^{かんぜんくんもう} 後編巻5~8』中外堂 1875(明治8)年(BF151/2/2-5~8)

2. 岩倉使節団と海外教育視察

岩倉使節団とは、1871(明治4)年11月(陽暦では12月)から約2年、米欧12ヶ国を歴訪した特命全権大使岩倉具視らからなる使節団である。この中の一人で欧米の教育制度を調査研究したのが田中不二麻呂(不二麿)である。田中は、尾張藩の下級士族の家に生まれ、維新後明治政府に登用、岩倉使節団に加わった。その後、再びアメリカに渡り、帰国後アメリカにならった地方分権的な教育令の原案を上奏した。また、モルレー(David Murray)はアメリカから1873(明治6)年文部省に招かれ、学監として田中と同じく近代教育制度の確立に貢献したお雇い外国人である。



『理事功程』

【展示資料】

- ・久米邦武編『特命全権大使米欧回覧実記』博聞社 1878(明治11)年(B302/71-1~5)
- ・文部省編・刊『理事功程 巻1~15』1873・1875(明治6・8)年(BF372/1/1~15)
- ・文部省編・刊『米國百年期博覧会教育報告 巻1~4』1877(明治10)年(BF372/2/1~4)
- ・『米國学校法 上・下』文部省刊 1878(明治11)年(BF373/1/1・2)
- ・モルレー著 文部省訳編・刊『慕邇矣稟報^{もるれいりんぼう}』1877(明治10)年(BF372/8)
- ・モルレー選 小林儀秀訳『日本教育史略』文部省刊 1877(明治10)年(BF372/7)

3. 外国の地理・歴史の教科書

明治初期の内外情勢の急激な変化は国民の世界知識の獲得について大きな刺激を与えた。外国事情を学ぶ地理や歴史の教科書は、学制当初は一般書が使用され、やがて文部省刊行の教科書が発行された。それらはおおむね外国の教科書の翻訳本であった。当時の小学校教則をみると地理・歴史は教科名にはなく、「読物」の時間として扱われ、暗記中心の授業であった。

『万国地誌略』

【展示資料】

- ・田中義廉編『万国史略 巻1-5』1876(明治9)年(BF209/3/1~5)
- ・グードリッチ^{ばーれー}『巴来万国史 巻上・下』1876(明治9)年(BF209/1/1~2)
- ・セウエル^{ぎりしゃ}『希臘史略 巻1-9』1872(明治5)年



(BF231/1/1~9)

- ・『^{ろーま}羅馬史略 卷 1-10』 1874 (明治 7) 年 (BF232/1/1~10)
- ・コルネル『^{げるまん}日耳曼史略 卷 1-10』 1871 (明治 4) 年 (BF234/2/1~10)
- ・『^{ぶくに}仏国史略 卷 1-10』 1874 (明治 7) 年 (BF235/2/1~10)
- ・グードリッチ『^{あひだ}合衆国小史 卷 1-4』 1874 (明治 7) 年 (BF253/1/1~4)
- ・『^{ばんこく}万国地誌略 卷 1-2』 1875 (明治 8) 年 (BF290/17/1~2)
- ・『^{よちしりやく}輿地誌畧 卷 5』 1871 (明治 4) 年 (BF290/16)

4. 師範学校と教科書の編集

明治初期の官製教科書は、文部省や師範学校によって編集され全国に広まった。小学校の教科書は各府県の小学教則で指示していたが、おおむね師範学校制定の「小学教則」に準拠していたため、師範学校編集の教科書が主に使用された。1872 (明治 5) 年、東京に官立の師範学校が開設された後、全国各地で師範学校が設置される。ここで編集されたものは、入門教材図および下等小学の各科の教科書で、アメリカの教科書を模範として編集され、多くは翻訳型の教科書であった。

愛知県では、1874 (明治 7) 年 3 月、名古屋に官立愛知師範学校が設けられた。創立学校長として赴任した伊沢修二(いざわ・しゅうじ)は、後に文部省音楽取調掛(東京芸術大学音楽部の前身)の設立にあたり、音楽教育に功績を残した。



『小学唱歌集 初編』

【展示資料】

- ・小倉庫二編・刊『^{おしえかたせんてい}小学教方筌蹄 卷上・下』 1875 (明治 8) 年 (BF375/5/1,2)
- ・田中義廉編『小学読本 卷 2』 文部省刊 1874 (明治 7) 年 (BF817/1/2)
- ・師範学校編『日本地誌略 1~4』 文部省刊 1875 (明治 8) 年 (BF291/18-1/67160~67163)
- ・文部省編『小学算術書 卷 1』 小学教科書製本所刊 1874 (明治 7) 年 (BF411/4/1)
- ・木村正辞編『日本略史 卷上・下』 1876 (明治 9) 年 (BF210/16/1~2)
- ・愛知県第五課編『愛知県地理誌 卷 1・2』 愛知県師範学校蔵版局 1877 (明治 10) 年 (BW/A290/7/1-1~2)
- ・文部省音楽取調掛編『小学唱歌集 初編』 文部省 1881 (明治 14) 年 (BF767/1/1)

5. 文明開化と小学校

江戸時代までは庶民の教育は寺子屋での読み書きそろばんであり、一斉授業は行われていなかった。明治5年、学制により各地に設立された小学校で一斉授業が始まった。黒板や掛図、そして近代的な教科書など、西洋の見慣れないものを民衆はどのように感じていたのだろうか。明治初期の小学校の様子を描いた文章や絵などから窺い知ることができる。



『小学入門教授図解 第一』

【展示資料】

- ・内田魯庵「明治十年前後の小学校」『明治大正の文化』博文館 1927（昭和2）年（B210.6/M1/804758）
- ・福沢諭吉『世界国尽 1-6』（復刻：『名著復刻全集近代文学館 明治前期 1』）（B918.6/M3-1/1）
- ・『小学読本』文部省 1874（明治7）年（BF817/1/1）
- ・近藤恒次著『明治初期に於ける豊橋地方の初等教育』豊橋市教育会 1940（昭和15）年（BA372/1）
- ・「小学入門教授図解 第一」『明治文化全集 第十巻教育篇』日本評論社 1928（昭和3）年（B081.6/M/10）

愛知県図書館所蔵「明治期教科書コレクション」について

当館が所蔵する「明治期教科書コレクション」は、全部で約1,250冊。そのほとんどが国定教科書となる以前のものです。このコレクションは愛知県教育振興会から移管された資料を中心に各方面からの寄贈資料で成り立っています。通常、この資料群は貴重書庫で大切に保管されています。

貴重書庫内の「明治期教科書コレクション」



愛知芸術文化センター愛知県図書館

〒460-0001 名古屋市中区丸の内一丁目9番3号

: 052-212-2323 ホームページ: <http://www.aichi-pref-library.jp/>